

<p>第 2 0 3 回 都市懇サロン レポート</p>	<p>『近代ニュータウンの系譜 ー理想都市像の変遷ー』</p>		
<p>講 師</p>	<p>元(一社)都市計画コンサルタント協会会長 (株)市浦ハウジング & プランニング 顧問 佐藤 健正 氏</p>	<p>開 催 日</p>	<p>平成 2 8 年 7 月 2 6 日 (火) 18 : 00 ~ 20 : 00</p>
<p>講 師 プロフィール</p>	<p>1967 年 東京大学工学部都市工学科卒業 (株)都市開発コンサルタント (現(株)市浦ハウジング & プランニング)入社 関西文化学術研究都市、大阪国際文化公園都市、神戸市東部新都心などのプロジェクトに都市プランナーとして参画 1998 年～ 同社代表取締役社長、会長を歴任し、 2012 年から顧問に就任 (現在に至る)</p>		
<p>お話の概要</p>	<p>※産業革命以降、約 200 年の歴史を持つ、近代ニュータウンの変遷について、講師の著書「近代ニュータウンの系譜 ー理想都市像の変遷ー」に基づいて、お話を伺った。 (著書はこちらの URL に公開 http://www.ichiura.co.jp/newtown/index.html)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近代ニュータウンの原点 ⇒近代ニュータウンの原点は、世界初の産業革命を遂げたイギリス。 (1800年、ロバート・オーウェンが社会改良実験を開始したニュー・ラナーク村) 2. エベネザー・ハワードの田園都市論とその実践 ⇒ハワードは、「都市と田園の結合」を目指し、田園都市の実現性、経営的成立性を検討した。 (1903年、レッチワース (約1,500ha) に計画人口33千人の都市建設に着手) 3. 近代建築家の住宅・都市計画運動 ⇒ワイマール共和政ドイツのジートルンク建設ノル・コルビュジエの「垂直田園都市」 4. 「近隣住区論」とラドバーン開発 ⇒世界初の住宅都市計画 (コミュニティの都市計画) を確立し、第二次世界大戦後の世界のニュータウンに最も大きな影響を及ぼした。 5. 第二次世界大戦後イギリスのニュータウン ⇒1945 年、労働党内閣は、ロンドンを中心にマーク I (第 1 世代) ニュータウンを指定。 ⇒1960 年代、ニュータウン建設に消極的だった保守党政権は、方針転換して第二世代 (マーク II) のニュータウン指定を開始。ロンドン地域以外の 7 都市を指定。 ⇒1964 年、労働党政権は、産業構造の変化に伴い、10 箇所の第三世代 (マーク III) ニュータウンを指定した。 6. メガストラクチュア思想に基づくニュータウン ⇒1950 年代、一つの巨大な建築で都市をつくるメガストラクチュア・ムーヴメントが誕生。 (フック・ニュータウン計画 (ニューハンブシャー)) 7. 「ポスト 1968 年」の新しい波 ⇒都市計画・デザインの世界にもポスト・モダンの都市空間創造をめざす「新しい波」が現れた。 (ルーバン・ラ・ヌーヴー 中世都市の再発見 近代の巨大な非人間都市、無個性な都市への反動) 		
<p>意見交換の概要</p>	<p>※出席者の質疑・意見をもとに講師の見解等を示す形式で行われた。要旨は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ルーバン・ラ・ヌーヴーについて ⇒都市と大学が融合し、大学が産業の中核を担っている。 ●これからのニュータウンについて ⇒新しい生活やコミュニティ像の先に空間形成があり、都市計画家だけで作られたニュータウンは少ない。社会思想等を実現するのが都市計画の役割。 ●社会改良家について ⇒イギリスを始め欧州では、成功した人は社会に還元する文化が根付いている。 ●持続可能 ⇒まず、経済的に持続可能でなければならない。誰もが共生できる社会の形成が必要。 		
<p>記 録 者 の ひ と こ と</p>	<p>学生時代以来の近代ニュータウンの学習になり、懐かしくもあり、楽しいサロンとなった。特に時代背景と社会改良との因果関係や都市計画との結びつきが興味深かった。</p> <p style="text-align: right;">《都市懇サロン運営部会 委員 今井 重行》</p>		